

(出エジプト 24: 1-11; 民数記 11: 10-17; 使徒 20:17-38; 1 ペテロ 5: 1-4)

この40年で私たちの社会の権威に対する態度は確実に変化しましたね。昔は年長者を敬うのが当然でした。特に、親、教師、(政治家を含む)指導者に対してはそうでした。しかし、今はそうではありません。「民主的な独立性」すなわち個人の権利が主張されています。悲しいことに、この考え方は教会に集う多くの人にも影響を与え、個人の役割や責任よりも権利の方に気を取られる人が多くいます。「目上の人」に従うという考えは、そのような人々には馴染めないものです。その原因の一部は、権威という概念が私たちの文化から消え去っていつているからだと思います。教会の生活と成長に関わる重要な要素の一つは、指導者の持つ権威です。では、教会の指導者はどのような権威を用いるべきでしょうか。

権威には基本的に2種類あります。一つ目は、その人の地位や立場についてくるものです。大会社の社長は、その地位ゆえに被雇用者に対し権威を持っています。軍隊の隊長は、与えられた権威を用いて、軍隊を指揮します。イエス様は「あなたがたも知っているとおりに、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。」(マタイ 20:25)と、このことに触れておられます。このような権威は、人を支配することはできますが、人望を得ることはできません。人々の心をつかみ、従いたいという前向きな気持ちを起こさせることはできないのです。それは、地位や立場ではなく、権力を持つ人の質に関わっているからです。

イエス様はこのような権威をお持ちでした。イエス様には、当時の宗教指導者たちが持っていたような公的な地位や立場はありませんでした。しかし、マタイは福音書は「イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられた」(マタイ 7:29)と記しています。イエス様は信頼できるお方で、権威も持っておられました。それはイエス様の生き様に霊的次元を明らかに見ることができたから、すなわち、神様を本当に知っておられる方だとわかったから、そしてイエス様が真理を把握しておられたからです。パリサイ人で、ユダヤ人指導者であったニコデモがある夜、イエス様のもとに来たときに、彼はイエス様を「先生」と呼び、「私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。」と言いました。(ヨハネ 3:2)

キリスト教の指導者と他の指導者との違いは、最終的には神様に仕える心を持っているかどうかです。神様がダビデをイスラエルの王として油注がれたのは、「主はご自分の心にかなう人を求め」られたからです。(1サムエル 13:14) 興味深いのは、最後には人々もダビデの上に主の御手があることを認識し、彼のもとに来て、イスラエルの王になってほしいと頼んだことです。(2サムエル 5:3) 現代に生きるキリスト者として、また教会として、私たちの霊的生活を委ね、神様のみこころへえと導いてくれる指導者が私たちには必要であり、そのような指導者を私たちは求めるべきです。私たちは、神様のみこころにかなない、神様にふさわしい人になりたいと願っている指導者の権威に従うのを、わずらわしいとは思いません。

地域の会衆に対して権威を持つ上で大切なことの一つは、その指導者のように生きたいと会衆が思うような生き方をすることです。聖書の中にこれを示す明らかな証拠があります。人々が敬い、従った指導者たちは、明らかに仕える心と教会のビジョンを持っていました。ヘブル 13章に指導者たちに従うようにとありますが、私たちは「神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出さない。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならないさい。」(ヘブル 3:7)と教えられているのです。ペテロの手紙第1の5章には指導者は仕える者、牧する者、模範であり、「割り当てられている」人たちに関して神様に対する責任があることを強調しています。(2、3節)

教会の指導には、専制、民主制、神制の3つのスタイルがあります。専制では、個人または少数のグループに一切の支配と権威が委ねられており、彼らが会衆に従うべき「神様のみこころ」を伝えます。このような権威が教会の指導者に与えられたことで、今までに不幸な結末に至った

(出エジプト 24: 1-11; 民数記 11: 10-17; 使徒 20:17-38; 1 ペテロ 5: 1-4)

ケースがありました。この形態は、会衆の目を指導者に向けさせる傾向にあり、神様や、神様の教会の目的から目を背けてしまうという大きな危険があります。その結果、神様の家族であるキリストのからだにおける役割を果たすために人々が整えられたり、成長したりすることができなくなります。また、専制では、プライドや傲慢さが指導者に忍び寄ることはほぼ避けられないでしょう。

民主制では、教会運営において会衆全ての人が同等の発言権を持つことに重きを置きます。このスタイルの問題の一つは、霊的に未熟な人の意見と、より成熟した人の意見が同等に受け入れられるということです。このことから、長老教会では長老の選出に関して、会衆が選挙によって選ぶというだけでなく、セッションが候補者の資格や適合性を判断・納得し、選挙で会衆からの票を得た候補者が、まことに神様から召され、会衆の長老となるのにふさわしい人だと確信してから結論を出します。

聖書は、民主制の教会政治を決して説いていません。イスラエルの国は、明らかに神様が民を治める神政政治でした。新約聖書の教えからは「キリスト制」と言うこともできるでしょう。イエス・キリストこそが教会の主であられ、その権威に私たちは従います。この形態では、神様がキリストを通して教会をお治めになり、召した人々を用いられ、彼らに油を注ぎ、指導者として育成されます。そのような指導者である長老は会衆に対して責任があるだけでなく、王であり教会の頭であられる主に対して責任があります。これまでに見てきたように、指導者は人々の模範ですから、効果的な指導に不可欠なのは、キリストの王権に従うことです。キリスト教の指導者はキリストとみことばの権威に従い、この真理を自身の生活と働きの中で示します。

今日私たちの新しい長老を選ぶ審査を始めるにあたり、私たちが理解しなければならないのは、選挙で票を得るだけで長老の地位につくのではないということです。むしろ、私たちは教会の中で、すでに指導者として神様から油注がれているのが明らかな人を探すべきです。そのような人は、信仰深く、教会のビジョンを持ち、人を愛し、人を育てる賜物を持っています。最終的には、神様の教会ですから、神様にすでに召され、聖別された私たちが信じる人だけが指導者になることができます。

新約聖書では長老について何と言っているのでしょうか。パウロとバルナバがルステラ、イコニウム、アンテオケに新しく立ち上げられた教会に引き返したとき、彼らがまずしたことは長老の選出でした。(使徒 14:23) パウロはエペソを再び訪れることはできないだろうと気づいたとき、彼は長老たちに最後の勧めをし、励ましました。(使徒 20 章) パウロがテモテに、長老と執事の責任と資格を書いて送った時、彼は、「よく指導の任に当たっている長老」について話しました。(1 テモテ 5:17) ヤコブは病気の人に、教会の長老たちを招いて祈ってもらうように言いました。(ヤコブ 5:14) 新約聖書を読めば、長老の果たす重要な役割を無視することはできません。

長老制というのは、初代教会には新しい考えではありませんでした。実際、長老について初めて記されているのは、旧約聖書です。モーセとアロンが長老たちを集め、神様の民がエジプトから間もなく救い出されることを知らせました。(出エジプト 3:16) しかし、エジプトから脱出し、イスラエルの民が荒野をさまよい歩いているときに、神様の民の霊的健康を保つために、神様に召された長老たちの責任が明らかにされました。出エジプト 18:8-12 で、ミデヤンの祭司であり、モーセの義理の父であるイテロが、エジプトからご自身の民を救い出された主をほめたたえ、神の前で食事をするのに招いたのは、イスラエルの長老たちでした。民数記 11 章では、神様の民イスラエルを霊的に監督し、彼らを世話するために、人々が神様に召され、聖別され、聖霊の祝福を受けました。モーセはこの重要な役目のために、すでにそれぞれの部族の長老であった

(出エジプト 24: 1-11; 民数記 11: 10-17; 使徒 20:17-38; 1 ペテロ 5: 1-4)

人々の中から70人を選ぶように命じられました。その70人はおそらく、出エジプト24章で、モーセと一緒にシナイ山にいて、契約の作成に関わり、モーセとアロンと共にイスラエルの神様を礼拝するという偉大な特権にあずかったでしょう。

福音書の中でも長老に関する記述が頻繁に出てきます。イエス様がイスラエルの長老たちに対し非常に厳しい非難をされたことは注目に値します。実際、長老の集まりであったサドカイ人たちは、イエス様に反対する人々を扇動し、最終的にはイエス様の十字架刑を企てました。ユダヤ人の長老の多くが腐敗していたという事実にも関わらず、初代教会は長老制を受け継ぎました。しかし、彼らの資格や役割に関しては非常に細かい指示がありました。

新約聖書で長老と呼ばれる人々を表すのに2つのことばが頻繁に用いられました。一つは、ギリシャ語で **presbuteros**、訳すと「長老」です。もう一つはギリシャ語で **episkopos** で「祭司」「監督者」を意味します。この2語は異なるレベルの指導を指すという人もいますが、どちらの語も用いられている個所をいくつも読んでみると、これらが同じグループの人々を指す同義語であることがはっきりわかります。例えば使徒 20:17 でエペソに使いを送って、長老たち (**presbuteros**) を呼びました。その同じ長老たちに向かって、パウロは「聖霊は…あなたがたを群れの監督 (**episkopos**) にお立てになったのです。」と述べています。パウロは同じ人々、すなわちエペソの教会の長老たちにこの2語を用いているのです。

この2語が用いられた理由の一つは、紛れもなく、初代教会の文化的背景にあります。「長老」はユダヤ人の概念で、監督者を表す言葉として用いられた「祭司」はギリシャ人の概念です。教会を牧する指導者を指すのに、これら2語を用いたのは極めて自然なことでした。

**Presbuteros** という言葉は、成熟や威厳というような長老の性質を表します。人々は、長老は信仰深く、従う人々からの尊敬される人物であることを期待します。**episkopos** という言葉は、長老の役割を表します。長老は、教会を監督し、守り、監視します。これら二つのことばは、「神様の群れを牧する」べき人に神様が望まれる理想の姿を美しく表現しています。これらの言葉によって、ユダヤ人の信者、異邦人の信者どちらもが長老の役割を直ちに認識できたことでしょう。

では、長老の概念は、「牧師」という伝統的な役割にどう適合するのでしょうか。新約聖書の中の「牧者」という言葉の起源は、旧約聖書の中で群れを世話していた羊飼いです。ヨハネ 10 章でイエス様は良い羊飼いと喩えられています。1 ペテロ 5:1-4 は、長老は、神様の民を養い、導き、世話をし、守る役割を与えられた、神様に従う小牧者であることを示しています。牧者の役割には、神様の民をその働きのために、また成長の過程において育成することが含まれます。(エペソ 4:11-16) 大切なことですが、新約聖書の牧するという概念は、つねに長老たちのグループに対して用いられていて、決して個人が教会の一切の責任を負うというものではありません。これは、責任と支援と励ましを共有するという健全な枠組みを作ります。お互いを愛し、ともに交わり、互いに従うという原則のもとに形成される長老のグループは、長老に従う会衆の良い模範となります。

現実的な面だけから見ても、パストラル・ケアを分担する方がずっと良いのは明らかです。すべての責任がたった一人の「牧師」に集中すると、仕事量、会衆からの牧師への期待や需要で、最終的には教会内、牧師本人や家族に様々な問題が起きることになります。これに伴って、現実には、ひとり人間が、全ての働きに必要な賜物や能力を全部持っているということはありません。神様のみこころを求めていくときに、他の人からのチェックやバランスの補正があった方が、確実により安全で賢明で、聖書にかなっています。使徒 13 章で異邦人への宣教のためにパウロとバルナバが召されたことから、これは明らかです。ですから、長老教会では、専任の牧

(出エジプト 24: 1-11; 民数記 11: 10-17; 使徒 20:17-38; 1 ペテロ 5: 1-4)

師、または教育を担う長老の立場は、他の長老よりも上にあるのではなく同等で、皆が平等の立場でセッションを構成しています。

実際に機能しているセッションでは、次の三つが常に明らかであるべきです。一つは、長老たちが、神様との歩みによって導かれ、動機づけられて、信仰を深く持っていること。もう一つは、長老の賜物と召しの認識。そして三つ目は、へりくだって互いを受け入れ、互いに仕えることから見て取れる、しもべの姿勢です。どの長老たちのグループにも、役割の幅があります。パウロは1テモテ 5:17で明確にこのことを示し、「よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。」と言っています。重要なのは、それぞれの長老の賜物や才能を認識することです。(パウロが1テモテ 3:2で言うように)それぞれが「教える能力がある」べきですが、全ての長老が神様のみことばを説き、詳しく説明する賜物を持っているわけではありません。しかし、全ての長老はしっかりした教義に基づいて指導したり、間違いを正したりする能力を持っています。(テトス 1:9) それぞれの長老の賜物が何であれ、ひとりひとりが認識しなければならないのは、長老の第一の目的が、会衆が信仰において成長し、キリストの体に貢献するように、彼らを教え、育成することだということです。

最終的に、長老たちの活動はそれぞれの持つ賜物、能力、経験によって決まります。しかし、最も大切な役割は霊的監督です。監督者であり、牧者である以外に、彼らは「よく指導の任に当た」り(1テモテ 5:17)、教会における権威を活用しなければなりません。(ヘブル 13:17) これは会衆に対して権威を振りかざすという意味ではありません。長老の役割を認識した上で、会衆は長老の指導に従うべきだということです。

キリスト教の真の指導は、みことばの真理を生き、教えることなしには不可能です。長老の責任は、神様のみことばが忠実に教えられ(「神様のご計画の全体」が余すことなく説かれ)、正しい教義が会衆の生活の中で教えられることです。それは、講壇から、小人数の聖書研究会の中で、日曜学校で、そして1対1の弟子訓練においてもです。監督下にある人々が聖書の真理を十分に理解し、それを活かし、キリスト者としての生活を楽しみ、効果的にキリストのからだに貢献するように指導することは長老たちの役割です。神様の群れに食べ物を与えず、彼らの霊的健康を改善しようと努力せずに、その群れを牧することはできません。長老たちは出ていって、彼らの喜びや心配事に耳を傾け、彼らを愛し、励まし、助言を与え、世話をし、群れのために祈り、生活上の問題の解決のために助けるべきです。

長老には、イエス・キリストがご自身の血潮によって贖われた教会を牧するという特権と責任があります。どうか、主が、ご自身の栄光と御国の発展のために、私たちの長老に加えて、長老たち自身と、その霊的生活を見張り、犠牲を払って忠実にこの教会にいる神様の群れを監督する者を召して、立ててくださいように。

アーメン